

授業概要

本コースは文化人類学のアプローチを用いて、世界各地で見られる様々な文化を比較・考察しながら、文化そのものについての理解を深めることを目的としている。文化を観察するには幾通りもの方法があるが、ここでは文化人類学者たちにより研究されてきたテーマに沿って、いくつかの事例を取り上げながら講義する。あわせて、学生みなさんの興味関心あるテーマも積極的に取り上げていきたい。そこで、授業では随時ディスカッションやグループワークを織り込むことを計画している。それにより、学生一人ひとりが「大学で学問することの意味」について深く自問自答する機会を提供できれば幸いである。なお、本コースで得た知見をもとに、リサーチペーパーを完成させて、それを学期末に発表してもらおうとも考えている。授業への積極的な関与を期待する。なお、学生の興味関心や履修者数によって、授業の進め方を適宜調整していきたい。

授業計画

第1回	オリエンテーション：コースの紹介、授業の進め方、課題の提出、評価の方法など
第2回	イントロダクション：比較文化論とは？
第3回	文化とは？：「文化」をめぐるさまざまな定義
第4回	文化人類学の歴史を概観する
第5回	さまざまな生業形態
第6回	社会階層と権力
第7回	婚姻・家族・親族関係、子育て・しつけ
第8回	ポスター・プロジェクト発表会
第9回	性とジェンダー
第10回	宗教、信仰、儀礼
第11回	神話と民間伝承
第12回	文化的アイデンティティの表出：工芸・音楽・演劇
第13回	言語
第14回	プレゼンテーション（1）
第15回	プレゼンテーション（2）
第16回	期末試験

到達目標

1. 比較文化論的な視点から、世界の文化的多様性について説明できる。
2. 自文化中心主義に陥ることなく、グローバルな視点に立って世界の文化的多様性について理解できる。
3. 比較文化論的なアプローチを用いて、私たちの現代世界を読み解く力を養う。

履修上の注意

大学生としての自覚を持ち、自らの責任を果たすこと。ここでいう「自らの責任」とは、授業に出席し、積極的にディスカッションやグループワークに参加し、そして提出物を時間厳守で提出することである。単位は与えられるものではなく、自ら取りに行くものである。

予習復習

その日の講義で扱うテーマについて、自分なりの理解や問題意識をもって授業に臨むこと。そのためには、テキストを前もって読んでおくことをお勧めする。また、授業後には、学習した内容について友人らと積極的に話し合い、理解を深めること。それにより、学期末のプレゼンテーションおよびリサーチペーパーがより良いものになるはずである。

評価方法

A. 授業参加姿勢（20%） B. ポスター・プロジェクト（10%） C. リサーチペーパー（25%） D. グループワークおよびプレゼンテーション（20%） E. 期末試験（25%） *変更する場合がある。授業中に指示する。

テキスト

- ・教科書名：新版 文化人類学のレッスン：フィールドからの出発
 - ・著者名：梅屋潔／シンジルト 共編
 - ・出版社名：学陽書房
 - ・出版年（ISBN）：978-4-313-34026-8
- くわえて、授業のなかでも適宜、参考文献を紹介したり、資料を配布したりする。